

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

○19番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

今回は、第2期「糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等についてでございます。

大分県豊後高田市では、住みたい田舎ベストランキング、小さなまちランキング総合1位が、豊後高田市でありました。本気の子育て支援、平成30年に第一弾として高校生までの医療費と幼稚園、小中学校の給食費同時無料化、子育て支援拠点施設を市内4か所に開設いたしました。平成31年に市内保育園の保育料の完全無料化、市内幼稚園、市内保育園共にゼロ歳から5歳児の給食費の完全無料化、子育て応援誕生祝い金で最大100万円を支給、1人目、2人目、10万円、第3子が50万、第4子以降が100万。平成2年度の4月からスタートした妊産婦医療費が無料に、市内保育園へ通う保育士等の処遇改善を独自支援、新たな子育て支援のワンストップ窓口を開設。ワンランク上の移住者応援プロジェクトでは、無料の定住地地の予約受付中、空き家バンク利用希望登録がネットで申込み可能に。子育て支援住宅、新婚さん応援住宅、数々載っております。

そこで、糸魚川市が可能かどうか分かりませんが、以下、糸魚川市の取組について、伺います。

(1) 少子化対策について。

- ① 本気の子育て支援と「ワンランク上の」移住定住施策の考えはあるか、伺います。
- ② 婚活・仕事支援制度の充実の考えはあるか、伺います。
- ③ 財源確保対策及び民間提案制度の導入の考えはあるか、伺います。

(2) 糸魚川ブランドの創出について。

- ① 公民連携及び大学連携の取組についての考えはあるか、伺います。
- ② マーケティング支援策と産業支援センター（糸ビズ）の設置に向けた調査研究の考えはあるか、伺います。
- ③ 水の研究とCCRCの実現に向けた取組及びマイスター制度の進捗状況は、どうなったか伺います。

(3) 働き方改革について。

チャットツールの活用及び人事評価制度の整備の考えはあるか、伺います。

(4) 健康福祉対策について。

- ① 地域ポイント制度及び地域通貨の導入の考えはあるか、伺います。
- ② 介護人材の育成・確保とAIの活用についての考えはあるか、伺います。
- ③ ヘルスケアの推進と高齢者の見守りの考えはあるか、伺います。
- ④ 節薬バッグ運動の考えはあるか、伺います。

(5) 防災・セキュリティの取組について。

監視システム設置計画及びSNSを活用した住民からの情報提供の考えはあるか、伺います。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、子育て世帯への各種支援やU・Iターンに対する住宅支援を進めるとともに、テレワークの推進による多様な働き方への対応などを行っているところであり、ふるさと納税等の自主財源の確保にも努めてまいります。

2点目の1つ目につきましては、糸魚川市産業創造プラットフォームをはじめ、民間との行政等支援機構の連携による糸魚川独自の付加価値の創出が進められてきており、引き続き海洋高校の取組を支援するほか、高等教育機関とも連携を進めてまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、マーケティング等の支援については、NICOや商工会議所、商工会の経営指導員が担っており、新たな産業支援機能については、糸魚川産業創造プラットフォームの取組を進める中で検討してまいります。

3つ目につきましては、大学や首都圏の自治体との話し合いを始めたところではありますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、状況を見ながら取り組んでまいります。

3つ目につきましては、自治体専用のビジネスチャットを試験的に導入したところでもあります。人事評価制度につきましては、先進地の状況を確認しながら見直してまいります。

4点目の1つ目につきましては、健康づくり事業等への参加に対し、ポイントを付与する健康ポイントラリーを実施いたしております。

2つ目につきましては、介護人材育成支援事業や修学支援貸与事業等により、人材の育成と確保を行っており、AIの活用につきましては、今後、先進事例等を研究してまいります。

3つ目につきましては、健康いといがわ21に基づき、健康寿命の延伸に取り組んでおり、高齢者の見守りにつきましては、安否確認事業や緊急通報装置貸与事業などにより、実施いたしております。

4つ目につきましては、市内の薬局において残薬回収が実施されております。

5点目につきましては、地滑り等の危険箇所の状況により、その都度、関係機関と協議をし、設置の検討を行っております。住民から頂いた災害危険等の情報は、必要に応じ、安心メール等で周知いたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。大分の豊後高田市、住みたい田舎ランキング、小さなまちランキング総合1位、私、雑誌見たときに総合1位、これ小さなまちで大したことないんだとホームページ見させていただいたら、さっき言ったとおりで。昔から、昭和の町ということで、地域資源の再評価による商人の誇りの再生ということで、昭和30年代から行われたところをごさいますて、すばらしいやっぱり昔からの、先祖代々からの取組、他人に任せない。まちづくり委員会を設立して、商店街活性化を図る方法を模索して、まち再生プロジェクト、昭和の建築、歴史、商品、商人再生という4つの再生をキーワードにやられたところをごさいます。

その成功の要因なんですが、今、駅北で頑張ってる方々、やっぱり特徴をつけて1つの徹底、1つに対して徹底的にマーケティング調査、2年にわたって全国300事例の情報を収集して、100か所の現地調査。この辺までやっぱり深く、昭和30年を再現したいということで行われて、2001年9月で7店舗しかなかったんですが、2009年4月で38店舗に増えている。私は、そこまでやっぱり昔のことから本物追求、そこまで類似施設とは差別化を図った。やっぱり20年前からやってるんだということ、今回の質問に取り上げさせてもらった。ここまで徹底してて、どんだけ財源必要なのかわかりませんが、ばらまきという表現もありますが、やっぱりほかの全国見てもらって、どこを絞って、どうやるかというのを判断して、ここまでやっぱりやらんなんて思いました。その辺含めて、糸魚川市にどう反映させて、どう取り組むのか教えていただければ幸いです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

議員から、今、大分県の豊後高田市の事例をご紹介いただきました。私もうちのホームページ等で調べさせていただきました。人口が2万2,500ぐらいなんです。2万2,000というと、ちょうど糸魚川市の推計でいいかと2045年ぐらいの人口規模になるのでしょうか。そういった小さなところでも非常に頑張ってもらえるなというのが見受けられました。確かに本気の子育て支援、ワンランク上の移住・定住、こういうキャッチフレーズでやっぱりいろんなきめ細かいところの支援策というのがあるのかなと。それと、財源ではしっかりふるさと納税、特産品という地域資源をしっかり磨きをかけて財源の確保に努めている。小さいながらも議員が今ご紹介いただきましたように、しっかりとしたマーケティングをしながら進めているというところは、非常に参考になるというふうに思います。

糸魚川市のほうも、平成27年から地方創生の総合戦略というのが、やってるんですが、やはりある程度、地域の価値、いいものをしっかり、あり過ぎて困るのかなというところもありますので、やっぱり今あるものをもう一度見つめ直す。今ある地域資源を足を使って見直して、そこを生かしていくという、そんな取組が、これからは必要なんではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

それで、今のホームページ見させてもらおうと、昭和の町、手のひら案内人ということで、楽しみ方動画、ユーチューブで、ぱっと見たら出てくるんですね、何店舗か。ぱっと出せば、そこで動画を映して、そこで何を作って、何が買えるとかぱっと分かる。これがチームラボ「お絵かき草地おどり」、そこで絵描いたところで動画が出てきて、ヒスイ海岸でないですけど真玉海岸、真玉海岸というのがバックにドンと出てくるんですね。そこで自分の絵描いたのが後ろに出てきて、ここで見れば出てくる。目の前に巨大な草原で、草地おどりというのが出てきて、自分で踊れるようなところ。ボンネットバス、やっぱり違う感覚でひまわりフェスタ、温泉もあって海も近くにございます。その辺の写真家、写真コンテスト、花とアート。映画化、映画のロケ地に、ここにします。いろいろ形でもうやっぱり取組が違いますね。その辺までやっぱり考えながらやっていく必要があるんじゃないかということを感じさせていただきました。

それで、もう一つの若者が住みたい田舎ランキング、その3位に飯山市、長野県の飯山市。この私ら先進地で視察行ったときに、観光地を300のプランを立てて、徹底的に観光局で誘致、体験、いろいろな形で300、パンと自分らでやっていただいて、体験してもらおうようなプランをそこでこしらえてできてる。今、若者、移住が19歳以下が2割、30代、40代が5割、ふるさと回帰支援センター。今コロナ禍でもありながら、どんどんオンライン窓口を通して来てるらしいです。今がチャンスだと思うんです。それでどんどん移住者も増えて、2018年が109人、2019年が120人、県外が57人で、県内が63人、その辺で増えてる。私は、今、雪も飯山もあります、その辺も含めて近くだから参考にする必要があると思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員からも一つ、長野県の飯山市の事例をご紹介いただきました。確かに飯山を調べてみますと人口規模は1万9,000人台、2万人を割ってるんですね。そういった中で、今、移住者の方が100人とか120人とか、非常に人気があるのかなというふうに思っております。やっぱり若い人にターゲットを絞って、いろんな体験ができる。若者志向といいますかアウトドア、今コロナですのでどっちかっていうと都会から外へ出たいという志向が、いろんな新聞等の調査でも若者でやっぱり6割ぐらいは外へ出てみたいとかというのがあると思います。

そういった機運に乗って進めているんだらうというふうに思いますので、糸魚川市も今、移住相談というのはちょっと首都圏のほうに出向くことは不可能なんです、オンラインとかを使ったり、いろんなUターンのツールを使いながら何とかこちらで、遊べるといいますかちょっとこう遊び心のあるちょっとした体験でも構わないと思うんですね。そういうものはもうあると思うんですが、よりうまく発見して、情報の発信、見せ方だと思うんですが、そういったところの取組をしていく必要がありますし、今後もより一層、そこら辺の強化というのが自治体競走を何とか生き延びる、勝ち取るというところが大事なのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

飯山市やっぱりIターン・Uターン移住者向け賃貸住宅を拡充、空き家バンク制度にも力入れて、2019年度新規物件が、売買家屋が34件、土地も4件で38件を発掘。誓約の建物売買は全国トップクラス24件。やっぱり空き家も含めて土地も含めて売買できるような体制まで図っていると。私はその辺まで図っていく必要もあるし、賃貸アパートもあり、空き家購入もできる。新築選択肢がそろっている。決断が有利だと。幅広いところでやっぱりその辺もかなりニーズも調査してやっ  
てるんでしょう。その辺も含めてぜひ取組も強化していただきたいなど、こう思っております。

それと、前聞かせてもらったとき、島根県の海士町、いろいろなところで地域活性化のモデルと  
かいろいろな形になって、以前は行政改革、職員の給与を削減したりいろいろな形で未来への先  
行投資。行政改革、守りから攻めの産業振興策、攻めの中で島丸ごとブランド化、これは外貨を獲  
得する岩ガキ、カキ、塩作り、農業特区に隠岐牛、牛ですよ。それも含めてCAS凍結センター、  
これはなかなか金額にすりゃ高いんですが、やっぱりそのまま急速冷凍して、鮮度を維持して東京  
や大阪へできる体制。今いっぱい魚も獲れたりしても売るところがないとかでなく、やっぱりそこ  
までためて出荷できるという、そういうところまでやっぱり改革していかないと駄目だなど、こう  
思いました。それで、2004年から2007年まで88人を雇用、U・Iターン93世帯で  
167人を移住ということで、大分前に行ったところで、サザエカレー、それやっぱり商品化を図  
らないと駄目なんで、外部人材の登用を民間から図りながら、よそ者、商品開発研修制度を実施。  
それを臨時職に採用して、どう商品開発をするか。そいで大学との連携もあるんですが、都市部の  
学生を、一ツ橋だとか東京大学だとかその辺も含めて交流を図って、インターンシップで留学生を  
受け入れたり、ニートも受け入れたそうでした。

その辺も含めて、今どうなってるんだなと思って見てみたら、海士町経営特別補佐官チーム、こ  
れも民間から登用して、民間の外部有識者4名で体制して、半官半X魅力化担当、これ1番目。  
2番目が未来投資事業担当、3番目が中小企業活性化担当、4番目が島内経済循環担当、4人で担  
当を民間から来てもらったところをやったり、やっぱり違う、頑張るとところは昔から頑張って、  
今でも頑張るとる。そこをやっぱり重視せんなんと思ってるんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今度は海士町の事例を言われたと思っておりますが、確かに海士町の取組というのは、隠岐島前  
高校、いわゆる高校を島留学とかをさせて、やっぱり公営塾なんかもつくって、人材を育てるとい  
うのと、あと商品化、島の地域資源というのは、あそこは海に囲まれてますので、いろんなサザエ、  
岩ガキ、春香というんですかね、岩ガキですとか隠岐牛、そういったものをたしか特産品として出  
しておったと思います。やっぱりただ作ってしまうだけだったら、糸魚川市でも幾らなんでも作る  
のはできると思うんですが、問題はやっぱり販路だと思うんですね。たしか海士町ですと東京のほ

うにもサテライトショップを持っていたりとかしてるし、店を持ってるだけでは駄目だと思うんですが、問題はやっぱりそこをつなぐコーディネーターの人材だと思うんですね。糸魚川市でも地域おこし協力隊を、なりわいネットワークとかそういったところで何とか地場産品を売り込みたいという努力はしているところでありますけども、そういった小さな取組を重ねることによって、何とか販路をつくる。で、誘客もできる。基本的にはやっぱりそこをつなぎつける、つなぎ合わせる人材の育成、コーディネーター、そこが一番キーなのかなというふうに私は海士町行ったときに見てまいりましたので、やっぱりキーになるのは人かなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

昔、子供を島留学させとったんですが、今年からは大人の島留学も事業化されてて、それはそれとして福祉人材及び医師確保も予算化されとると。それで、今独自のみかんの再生、特色ある米、海土産のブドウをワイン事業にと。いろいろ農福連携も含めていろいろな形で販路拡大、商品開発もされとると。

ほいで、先ほどもあったICTを活用した定置網漁業に対しても予算化、これは2億2,000万ぐらいですか、その辺はやれっちゃんではないですけど、その辺まで考えてるといことと、ふるさと納税につながるような海士ファンを増やす。ふるさと納税、これも未来投資基金の事業展開をして、経営事業体の育成及び基盤強化に向けて行ってるということ。

それともう一点、やっぱり先ほども答弁にあったように隠岐島前高校が、少なくなったんですけど、今現在は全体の教育、糸魚川と一緒にゼロ歳から18歳、教育魅力プロジェクト、地域全体を考えている。島外の推薦枠の拡大、寮の部屋数を来年、令和3年から不足するんで、それを頑丈にするということも含めて、未来投資型なんですね。今、人だと言うんですが、やっぱり世代を超えた交流を図ることで地域の未来を担うグローバル人材を育成してまいるということなので、そこまでやっぱり考えて、人づくりもしとるといことなんですが、その辺も含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

人材育成の仕組みというのは、非常に大事だというふうに思っております。特に当課のほうでは、若者の人材育成という形でいろんな若者の力を使った事業ですとか、まちづくりのパワーアップ事業だとか、そういう若者の活躍というところの事業をやっておりますし、今、教育委員会サイドのほうでは、高校を核とした人材育成という形で、高校の魅力化、何とか地域で子供たちをしっかりと育てるとい取組、そういったところが大事になってくると思います。そういった意味では、子供から若者にかけて、やっぱりつながりのあるような取組をしながら、何とか地域活躍人材というものは育成していくということは大事だというふうに思っておりますし、今の時期の総合戦略の中でも、若者の活躍のための取組というところは、重点的に進めなければいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

それで、糸魚川ビジネスセンターを含めて考えてないという答弁なんですけど、今一般質問、私の前の人もいろいろ言っとったんですけど、農林水産業も含めて仕事づくり、創業・起業支援含めて、働くところの強みをどう生かすか、私は本当に人だと思っんです。人材育成、コーディネートが必要。それには糸魚川ビジネスセンターを含めた外部の人を入れる。先ほど高澤議員は、中から育てる。中の人だけがそれだけ企業の売上げを伸ばしたりいろいろな形でできるかどうか、それだったら外部人材を含めて誘致する必要があると思っんですけど、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

仕事づくりの観点からというふうに思っております。確かに今、糸魚川市のほうでも産業部のほうになると思っんですけど、創業支援、やっぱり若い人たちが中心になると思っんですけども、やっぱり自分のスキルを何とか生かしたいというところで創業塾、いわゆる学ぶ場を提供して、そこで学んで、今度実践的にキターレとかいう施設も活用しながら実践して、顧客をつかんでいく。うまく業とすれば、独り立ちをしていく。そういった仕組みというのは、今徐々に小さいんですけどもあるのかなというふうに思っております。

今なかなか仕事というのを、特に若い女性の方の仕事というのは非常に確保が難しいのかなというところで、テレワークという事業も進めておりますので、いずれにいたしましても人づくり、仕事も含めてなんですけど、やっぱり学ぶところの原点から、しっかりビジネスへつなげていく。そういったところは教育と同じような感じで、分かりやすく何かこう明解な仕組みというのが必要だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

今の創業塾だとか創業支援プラットフォームとか、一部の企業とかに偏ってるんですよ。そうではなく、相談を受け付けて売上げを伸ばしてあげる。その相談、コーディネーター、それをつくるために富士のエフビズ、岡崎のオカビズだとか、今20市でやってると思う、20地区で。富山の氷見が、この前9月に立ち上げて、全国から募集してコーディネーター1人を採用しております。その費用は、市も含めて商工会議所、金融機関、いろんなところから出してもらって設立する、その産業支援センター。今、「ひ」だからエイチビズですかね。その辺はやっぱり糸魚川ビジネスセンターぐらいを含めて、相談、年間で1,000件以上だとか、そこ相談を受けたら何人かでやって、その企業を生き返らすのも含めて伸ばしてやるような相談を賜るところなんです。その辺でいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

議員おっしゃるのは、商品が売れる仕組みづくりというふうに捉えますけれども、これやっぱり企業の活動の根本であると思っております。大企業あるいは中小企業、小規模事業者等、企業の大きさや業種を問わず必要な取組かなというふうに思っております。

当市においては、B to Bの事業者が多い現状で、取引先が固定していることから、なかなかマーケティング活動として目立っておりませんが、企業の皆様においては、必死に今研究、日々取り組んでおられることと思っております。さらに先に進みたいという意欲のある方は、先ほど市長答弁にもありましたけれども、にいがた産業創造機構や商工会、あるいは商工会議所の支援、また、新潟県の工業技術総合研究所の支援を受けるなど、積極的な取組も見られますけれども、まだまだ利用が少ない状況でございまして、市としても利用促進と支援をしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

もう一つ、今、コロナウイルスの関係で、新しい生活様式への対応ということが、今盛んに言われてるところです。どういった形で、形が決まってくるのかというのは、まだ見えない部分もあると思うんですが、国のほうでも地域未来構想というのがあって、そこの中のオープンラボというところで新しい生活様式への対応のためのプロフェッショナル人材の活用というのがありますので、そういったメニューを見ながら、糸魚川市でどういった分野で取り組めるのか、そういったところをちょっと研究しながら、うまく活用ができるものであれば使っていければというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

今、国の支援もぜひ、その辺でいいから研究していただきたいと思います。見辺産業部長が言われたように、県とかいろいろな、N I C Oとかいろいろな形で、行かんなんやんですよね。ここにおりながら人がおるんだから、どんどん、どんどん気軽に相談してくれる体制が必要なんです。

困ったらすぐ飛んでくる。まだ売上げ伸ばしたきゃ来る。そういったら強みを見抜いて具体的な提示をするんです、戦略、これが1つ。

2番目がワンストップコンサルティング、経営からマーケティング、ブランディング、広告、財務、I T、金融に至るまでもうかる会社に変えるきめ細かな戦略がある。それを提案、コンサル集合体なんです。これが2番目。

3番目が継続的なフォローアップ、成果が出るまで一緒に伴走支援をするんです、そこにおれば。氷見でもできたのは、そこなんです。

全国で20ぐらいあるんですが、糸魚川にもそれを、センターを置きながら上越からでも富山からでも長野からでも、来ていただけるような体制づくりっちゃ、今私は必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

確かに今、議員から言われたように、ワンストップでのサポートというのは大事だと思います。市でもいろいろ創業支援ですとか企業支援というようなものは、やっておりますけども、そういった中でもやっぱりフォローアップというのも非常に大事だと思います。ただ起業して、その後はではなくて、やっぱり継続してできるようなフォローアップというのは大事だというふうに思っておりますので、そこら辺の仕組みもいろいろ事例を見ながら、今後は取組を進めていかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ調査研究ではなく、行動にぜひ移していただきたいなと、こう思っております。

それで、ちょっと飛ぶんですが、マイスター制度、マイスター制度自体はやってるところやっていないと、厚生労働省も含めて、ものづくりマイスターも含めて、糸魚川市にも何人か何十人か分かりませんが、制度はないと思うんですが、そういう技術職も含めて、それに該当するような熟練技術者みたいのはおるかどうか、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

マイスター制度につきましては、糸魚川市では今のところ取組はないというふうに思っておりますが、いろいろインターネットで調べていきますと、新潟県でいくと県央地域やってるかなというふうに見受けました。いろいろ飲食業ですとか、あと職人さんですか、そういった方の登録制度というふうに見ております。いろいろ熟練した技、品物、そういった伝統工芸といいますか、物すごいプロの仕事というのをつなげていく。それを顕彰したり表彰したりとか、それで、より独自の地域の価値を上げていくということにつながっていくというふうに見えましたので、糸魚川市でそういったマイスターの登録が、今後あるかどうか、また産業部門のところとちょっと情報を共有しながら注視して見ていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ優れた技能と経験を有した熟練技術者を糸魚川ものづくりマイスターとして認定して、その基準はどこまで線引きは、国の関係だとかその辺も含めて研究してほしいんですが、それを11月の中学校のキャリア教育フェスティバルでないんですけど、そういう方々もやっぱり一緒になって、個人経営かも分かりませんが、そういう技術を持った人からも見ていただいて、糸魚川でこういうのもやってるし、実技指導も含めて、産業活動の基礎となる若者技能者の育成を支援していく必要が、私はあると思う。余計、今ITだ、AIだと、すぐロボットで造れるかも分かりませんが、そういう人材も育てる必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

議員から今、貴重なご提言だというふうに受け止めております。そういった熟練した人たちの育成、それを例えばキャリアフェスティバル、子供たちにとりか、高校生も含めてなんですけども、うまくつないでいって、またそこから後継者が生まれれば、もっと循環がいいというふうに思いますので、そういった技というものをぜひ披露できるようなものというのは、全庁的に呼びかけていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ調査研究して、行動に移していただきたいと思っておりますし、何十人か何人かおると思うんで、その辺も発掘も必要だと思うんで、ぜひお願いしたいと思っております。

それで、人事評価制度、これも先ほど高澤議員からありました、市の職員を育てていただきたい。全体で1,000人以上おるということなんで、この人事評価制度、ある支援企業のアンケート、自治体・職員のアンケート調査したら、職員の7割は人事評価に満足してない。7割が満足してないそうなんです、糸魚川はどうか分かりませんが。7割満足してないんだったら、それを改正・見直しする必要があると思うんです。それをシステム化するんです。若いすばらしい職員がおるんだから、それを評価してあげて、その構築も含めて、見直しを図るチャンスがやっぱり今だと思うんです。逃さない、いい人材を逃さない、育てる、それが必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

お答えいたします。

人事評価制度につきましては、議員おっしゃるとおり職員が今までは評価だけを基準にといいますか、点数づけみたいな形でやっておりましたが、この先はやはり育成を含めた、職員の育成を含めた部分での評価も必要になるかと思っております。そういう部分では、評価基準の見直しというのも重要になってくると思っておりますので、その辺を研究しながら進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めてやっていただきたい。職員のエンゲージメント向上、やっぱり人材育成、目標達成、業績向上、やっぱりこの3つも含めて評価してあげるような体制づくりやっぺいかなんと思えます。皆さん上司の人が、後輩をやっぱり育てていけるような体制づくりして、よりよい職場を築いていく必要があると思うんです。その辺で、評価システムの中で、評価の公平性を担保できる専用システムの導入。公平な評価、誰かやれば変わるようながではなく、公平なシステム、いろいろなところで宮崎県の西都市とか、鯖江とかいろいろな形でやっぺいところを先進地を見ながら、私は今やっぺいその辺も含めてやっぺい必要があると思う。評価するだけでなく、その先の育成に本当につながっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり一番人事評価というのは、非常に難しい部分であります。いかにやはり適切な、そしてまた公平性な評価をしてやるということが一番大事でありますし、我々は本当に職員の管理に対しまして、人員削減もしながら進めておるわけでございまして、しっかり活躍していただくことが大事なんで、そういう環境をつくっていく。それに判断する指標になるわけでありますので、それだけはしっかりやっぺいしていきたいと思っております。

ただ、非常に難しいのは、適材適所、そういったとこを考えたときに、本当にいかに場所を探すかというのは非常に難しい部分がありますが、それを分かるような、誰でも分かるような形に持っていくのが一番公平性であるだろうと思っておりますが、なかなかそれが難しい部分になってまいっております。限られた人員で対応するという、これからだんだん、だんだんそれが必要になってくるわけでありますので、より人事評価をしっかりとしたものに持っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

本当にこの人事評価、職員の納得感こそが重要。納得するようなやっぺい評価であってほしい。それで、先進地見ると3つの効果がある。

1つ目が、視覚的に見やすく、操作も簡単で、誰でも抵抗感なく使用できる、これが1点目で。

2点目が、蓄積データの加工・編集によって評価結果を分析できるようになってる、これが2点目で。

3点目が、評価結果を能力開発に生かす上で、職員のやる気、生産性を高める。この3つの効果を得られたっちゃあ、私はすばらしいと思うんで、その辺も踏まえて、ぜひそのシステムの在り方を検討していただきたいなと思います。

次に、ポイント、地域ポイント制度含めて、ちょっと巻き込んだマイナポイントもあるんで、一緒になって、マイナポイントも一緒に考えながら地域のポイント制度も含めて、地域通貨を創っていただきたいなと考えとるんですが、その辺やっぱり統合しながら、単独でやりゃばらばらになるんで、その辺の全体を見ながらどう終結して、より効果の上がるポイントを図っていくか。その辺の研究しての取組はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

それぞれのマイナポイントなり、ポイントを付与する様々なシステムを統合したらどうかというご指摘であります。マイナポイントにつきましても、国が既にスタートをしている事業でありますんで、なかなかそこと今融合するのは、ちょっと時間的には難しいかなというように思っておりますが、ただ、いろんなポイントを総合的にやっていくというのは、市民にとっても分かりやすい方法だと思います。事業を進めていく中で、考えてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めて、マイナポイントがお一人当たり5,000円分が上限もあると思うんですが、そればかり言ってもらえないんで、便利なようなカードも含めてやるべきだと思います。ぜひ研究して、よりよいものをつくっていただきたいなと思います。

それと介護人材育成確保、今、全国的に2019年、老人福祉介護事業の倒産件数が、負債で1,000万以上が111件、これからできるだけ在宅医療、介護の充実の政策に重きを置くべきで、地域を巡回する人材を十分確保する必要があると思うんですが、この辺は介護人材の育成、待遇改善など、振り向けることができると思うんですけど、その辺も含めてどう考えとるのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

介護のサービスに際しましては、市民であるとか、また、市の保険者機能、さらには今、議員おっしゃいます事業所の介護人材不足というのが課題となっております。そういった中でも既にA Iを活用しました介護のサービス計画、ケアプランを作成するといった研究も出ております。そういったことによりまして、ケアマネジャーの業務効率化によりまして、人材の確保がスムーズにつながるといった事例も見えておりますので、先進事例等を参考にしながら、引き続き研究してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思えますし、行財政調査特別委員会で、豊橋市でA Iを活用したケアプラン作成支援、これもビッグデータを含めてケアプランをA Iでやってもらうような形、そういうのも含めてやっていただきたいと思えますし。

ヘルスケア、未病改善、それと節薬バッグ運動、私、全国的に広げるべきだと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

未病でありますとか健康寿命の延伸につきましては、現在、健康いといがわ21、健康増進の基本となる計画であります、その基本目標として現在、取り組んでおるところであります。

また、節薬バッグ運動に関しましては、飲み残しの薬を、それを見つけて適切な服薬につなげたり、また、残薬の次回の調整に利用したり、そういうことが医療費の削減の取組につながるということで承知しております。現在、それぞれ薬局で取り組んでおるところであります、薬剤師会とも調整しながら、どういう取組ができるのか、もし具体的な取組ができるようであれば、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ全体を振り返ると、財源確保がかなり必要になってきます。その中でふるさと納税を筆頭に、ぜひその辺も含めて考えていただきたい。ふるさと納税、命名権、クラウドファンディングも含めてやっていただきたい。

それで、大学連携、大学と民間と提案制度も含めて、私はやるべきときに来たと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

やはり地方創生、新しい取組ということになりますと、やっぱり大学の研究者の力というのは非常に大事だと思います。県内の大学の連携、協定を結んだりしておりますので、場面場面に応じて、しっかり担当と大学の部署とつながりを持ちながら調査研究というのは進めていく必要があるというふうには感じております。

また、いろんな民間の提案制度でありますけども、いろいろ移住・定住もそうなんですが、いろいろ首都圏の方の民間の事業者さんという方等のつながりというのがあります。そういった中でこういうふうにしたらいいのではないかとか、これからの動きはこういうマーケットがあるんじゃないか。需要があるのではないかとという情報も頂く中で、ぜひ情報の共有をしながら取り組めるものについては、しっかり取り組んでいくと。そういった姿勢で取り組んでいきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ調整するのが、市役所職員の役割だと思っておりますので、その辺もよろしくお願いします。以上、終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時10分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員